



平成28年度 横浜市立宮谷小学校 学校だより 2月号

みやがや

＜学校教育目標＞

響き合う豊かな学びの中で自分を見つめ互いに思いやる子を育てます

【知】 学び合う楽しさを知り、問題解決に向け主体的に取り組む子を育てます。【学び合い】

【徳】 社会や学校のきまりを守り、やさしく思いやりのある子を育てます。【思い合い】

【体】 お互いの生命と体を大切に、生涯を通してよりよく健康な生活ができる子を育てます。【気づき合い】

【公・開】さまざまな人々と豊かなかかわり合いを大切にしながら、わたしたちのまちに誇りをもって生活する子を育てます。

【かかわり合い】

冬来たりなば 春遠からじ

校長 奈良輪 孝雄

一年で最も寒い時期だとされる大寒(1月20日)を過ぎ、2月の声を聞くと、待ち遠しいのが暖かな春です。立春(2月4日)間近となり、フラワーボランティアの皆さんが精魂込めて育ててくださっている菜の花が咲き始めました。また中庭の梅の花のつぼみもほころび始めました。冒頭に掲げた「冬来たりなば春遠からじ」ということわざには、「冬がやってきたならば、春は遠くあるまい。」という意味のほかに、「つらい時期を乗り越えれば、やがて楽しい時期がやってくる。」という意味があります。フラワーボランティアの皆さんの季節感を豊かにする環境づくりには心より感謝しております。

新年1月10日に学校は授業を再開しました。子どもたちにとって19日ぶりの登校でした。長い休み明けは、学校生活のリズムに慣れるまで時間がかかるものですが、宮谷小学校の子どもたちはそれが当てはまりません。1月10日朝に行われた朝会では、900人を超す子どもたちが、整然とそして静かに入場します。先生方から「お話をやめましょう」という言葉は一言もありません。宮谷小学校では、見慣れた光景ですが、当たり前のことを当たり前に行うことは難しいことです。その朝会では、メジャーリーグのイチロー選手の話をしました。

イチロー選手は、インタビューで「人の2倍3倍の努力をしたのでしょうか。」という質問に「人の2倍3倍努力することは不可能です。ただ自分でできることを続けてきたことは間違いありません。」と答えたそうです。今年どんな自分になりたいかという目標を立て、それに向けて自分のできることを続けてください。

「自分でできることを続ける」こと、「当たり前のことを当たり前にする」ことは、簡単なようで難しいことです。時には「寒い冬」の時期もあると思います。しかし努力を続けることによって「暖かな春」も来るに違いありません。大きな夢や希望をもち、その実現に向けて努力を継続することができる学校教育をしていきたいと思えます。

いよいよ年度末を迎え、子どもたちの意識の中にも、もうすぐ卒業・進級の時期を迎えるのだという自覚が芽生えてきているように感じます。立春とはいえ、寒さは一段と厳しさを増しますが、健康に十分留意して、冬の大地にしっかり根を張る草木のように、自分の足場を固め、新しい学年を迎える準備をしてもらいたいと思えます。今月もよろしくお願ひ申し上げます。

